



モンゴルの先生との交流会 2日目

はなまりは、「祭」から



国際交流担当のA教諭が「小学部からモンゴルの先生方へ日本の伝統文化を伝えたい」と、準備を進めてきました。2日目の活動は「餅つき」。11月26日(木)に実施しました。朝から雨が降っていましたが、10時前には霧雨になりました。



はな組は、教室から外へ出て、プレイルームの窓側から、龍をかついで登場しました。雨上がりに、龍が外から跳んでくる・・・そんな雰囲気のステキな演出です。モンゴルの先生たちに、子どもたちが学生と一緒に作った造形作品だと説明すると、拍手が湧き起こりました。鳴子を置いて静かに待っていたつき組とそら組の子どもたち。三味線チームもスタンバイ。正座をしている後ろ姿にちょっぴり緊張感が・・・。けれども、演技する姿には自信があふれていました。大塚祭同様、人に「見せる」時には、少しの緊張感があつた方が、上手に表現できるようです。モンゴルの先生と餅つきをした後、ペアで記念撮影をしました。



お餅をついた後、モンゴルの先生とハイポーズ！
はな組の華。女子3人組！





支援部から、W教諭が応援に駆けつけてくれました。小学部の餅つきは、毎年、W教諭の故郷、新潟県の新米を地元から直接購入しています。品種は「こがねもち」という餅米とのことです。色つやがよく、粘りと風味が抜群で、甘みもあり、とてもおいしかったです。



モンゴルの先生方を案内してきてくださったセンターからA教諭もペッタンコ！通訳の先生や交流スタッフの皆さんと一緒に食べたのでお餅を食べました。きなこ、あんこ、磯辺巻き、3種類のお餅を準備しました。みんなペロリと食べて、おかわりコーナーには、長蛇の列。「お餅は苦手なので、食べない」と連絡を受けていたお子さんもいましたが・・・。こんなに食べたことはない、というくらい食べました。中には、15個前後食べた子どもたちもいました。おかわりを求めてきても、食べ過ぎに気をつけてね、と担任と相談してストップをかけた子もいました。とってもおいしかったのでしょ。機械でついたお餅より、杵と臼のお餅の方が、時間が経っても柔らかくておいしかったです。きっと人力で作ったお餅には、みんなの魂がこめられているのでしょう。懇談会でも報告しましたが、モンゴルの先生からの大人気は「きなこ」の粉でした。モンゴルにはない食材のようです。みんなお腹いっぱい食べて、2日間のモンゴル交流は、まんまる笑顔で満腹感をもって終了となりました。最後にアーチをつくって、モンゴルの先生方とお別れをしました。ステキな体験をありがとうございました！関係のみなさまに感謝をこめて・・・。

